

法吉小学校だより



法吉っ子

令和8年7月 文責 校長：伊藤英俊

法吉小のホームページも

どうぞご覧ください⇒



ほん気で考える子・つよい心をもった子・きょうも元気な子・このまちを大切にする子

◆「お手伝い」の夏休みに

ある教育記事に、家庭でのお手伝いが子どもの「思考力」や「判断力」を育てるという興味深い内容がありました。

例えば、食後の食器下げを頼まれたとします。子どもは「一度にたくさん運ぶにはどう重ねたらいいか？」「油污れが他のお皿に移らないようにするには？」と、無意識のうちに効率の良い「段取り」を自分で考えて行動しています。お手伝いは、実は子どもの脳をフル回転させる最高の「学びの場」なのです。

「指示されたからやる」のではなく、「どうすればスムーズか」を自分で考える。この繰り返しが、これからの時代に最も必要な「自ら考える力」の土台となります。さらに、役割を任されることで「家族の役に立っている」という責任感や自立心も芽生えていきます。

時には、水をこぼしたりお皿を割ってしまったりすることもあるかもしれませんが、しかし、それも「次はどうすれば失敗しないか」を学ぶ貴重な成長の機会です。失敗を恐れず試行錯誤する経験こそが、たくましい問題解決能力を育てます。

まとまった時間がある夏休みは、お手伝いを習慣化する絶好のチャンスです。大人がやったほうが早いことも多いですが、そこはぐっところえて、最後は「ありがとう、助かったよ」の一言を。その達成感が、子どもの自信とさらなる思考力を引き出します。ぜひ、この夏はお子さまと相談して、我が家の「定番のお手伝い」を決めてみませんか。

◆「あいさつ」が気持ちの良い学校へ

朝、昇降口に立って子どもたちを迎えていると、最近とても嬉しい変化に気づきます。それは、自分から進んで「おはようございます！」と元気な声を聞かせてくれる子どもたちが、確実に増えていることです。4月の初めには10人程度だった自発的なあいさつが、今では100人近くにまで増えてきました。

一気に10倍になったことは大変素晴らしい成長であり、毎朝の昇降口が以前よりもぱっと明るく感じられます。ただ、本校には400人近くの仲間がいます。全体の4分の1と考えると少なく感じるかもしれませんが、裏を返せば、本校には「あいさつの輪」を広げる可能性がまだまだたくさん秘められているということです。

昨年度の学校だよりでも紹介しましたが、「挨拶」という漢字には深い意味があります。「挨」は自分の心を開くこと、「拶」は相手に歩み寄っていくこと。あいさつは単なる学校の決まりごとではなく、「あなたと心を通わせたい」「今日も一緒に頑張ろう」という気持ちを伝える魔法の言葉なのです。

今年度の終わりには、さらに多くの子どもたちが心を開き、学校中に明るい声が響き渡る光景を願っています。子どもたちの温かいあいさつは、学校で共に過ごす仲間はもちろん、ご家庭や地域の皆様の心をも明るく、気持ちよくさせる力を持っています。

明日からの朝、少しでも勇気を出して、自分から心の扉を開いてみませんか。昇降口で、皆さんの素敵な笑顔と「おはよう！」の声を楽しみに待っています。



ほうきどり

校庭芝生管理、野菜づくり、図書ボランティア、ベルマーク集計、読み聞かせ、登下校の見守り、巡回見守り等、今月も保護者、地域の皆様からたくさんのご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。 電話:0852-21-4354 FAX:0852-21-4359 Mail:hokki-e@city.matsue.ed.jp